小金井みんなの公園プロジェクト
“play here”
― 令和６・７年度 整備計画（案）―

令和７年２月

小金井市

「小金井みんなの公園プロジェクト“play here”」とは？

公園を、障がいのあるなしに関わらず誰もが自由に遊べる場所にもっとしていきたい―。

小金井市では、インクルーシブな公園の実現により、あらゆる子どもや保護者同士の相互理解の促進を図り、共生社会の実現に寄与することを目的とした「**小金井みんなの公園プロジェクト“play here”**」を進めています。そして、東京都において新たに創設された「子供の遊び場等整備事業補助金」の採択を受け、令和７年度には栗山公園、梶野公園、三楽公園の３つの公園において、インクルーシブな公園整備が行われます。

しかし、遊具を整備するだけでは、本当の意味でのインクルーシブな公園の実現には不十分であると考えます。

本当に必要なものは何か、そのために何をすべきか・・・インタビューや調査などを行いながら、検証を進めてきました。

【WEB】

https://playhere.site/

【Instagram】

@play_here_koganei

インタビュー記事などの
リサーチ成果や、今後の
予定などを公開しています

インクルーシブな公園って？

遊具を設置すれば良い？

近年、いわゆる“インクルーシブ遊具”と呼ばれる遊具が全国の公園で増えていますが、身体・知的・精神障がい等、様々な方からのニーズを満たすハード整備は難しいため、**整備後のソフト面も一緒**に考えていく必要があります。

まずは周辺環境の整備から

公園に行きたくても、**移動が困難**だから、そもそも公園に行けない、**トイレの不安**があるから、ゆっくりできない、という方がいらっしゃることがわかり、まずはそこから解決していくことが重要と考えます。

みんなのためって誰のため？

公園に行きづらいのは、障がいのある子どもだけではありません。外国にルーツのある子や、不登校の子…**公園に行く“小さなきっかけ”**を必要としている子どもたちがたくさんいるということを考慮していく必要があります。

互いを知ることの大切さ

公園で子どもを遊ばせる時、**周りの目が怖い**と思ってしまう障がい児の保護者が多くいらっしゃることがわかりました。
一方で、障がいのある方と接したいけれど、**どのように接したら良いかわからない**、という声も聞こえ、まずは“お互いの想いを知る”ということが重要と考えます。

“play here”が目指す公園の姿

公園は本来、誰にでも開かれた空間であり、
誰もが“ここに居て良い”場所である

互いの違いを受け入れながら、支え合あえる

だれもが利用できる、目的があってもなくても利用できる

同じ時間・空間・体験をシェアできる

ここに来れば誰かに会える、気持ちが前向きになる

人や地域との緩やかなつながりがある

体験が豊かである、新たな気づき、発見がある

小金井市のインクルーシブな公園整備において大事にしたいこと

①遊具だけに頼らない“遊びのバリエーション”を豊かにする

- “インクルーシブ遊具”だけでなく、子どもたちの想像によって生まれる遊びも大切にします。

②公園に行ける“安心”と、公園に行きたい “きっかけ”を生み出す

- ユニバーサルベッドの設置や、駐車場の整備など、公園に行くための周辺環境を整えます。
- 菜園などの整備により、これまで公園に行けなかった子が公園に行くきっかけを作ります。

③会話を大切に、スモールスタートで一歩ずつ、より良くする

- 公園でイベントや情報発信を行い、インクルーシブについてみんなで考え、広めていきます。
- 公園管理者や地域との連携による、菜園の管理運営などについて検討していきます。

④公園の特徴や地域資源を活かし、住みよい小金井のまちづくりにつなげる

- 周辺施設との連携による相互利用や、より良い行政サービスの仕組みづくりを検討していきます。

３公園の整備における着眼点と方針

三楽公園

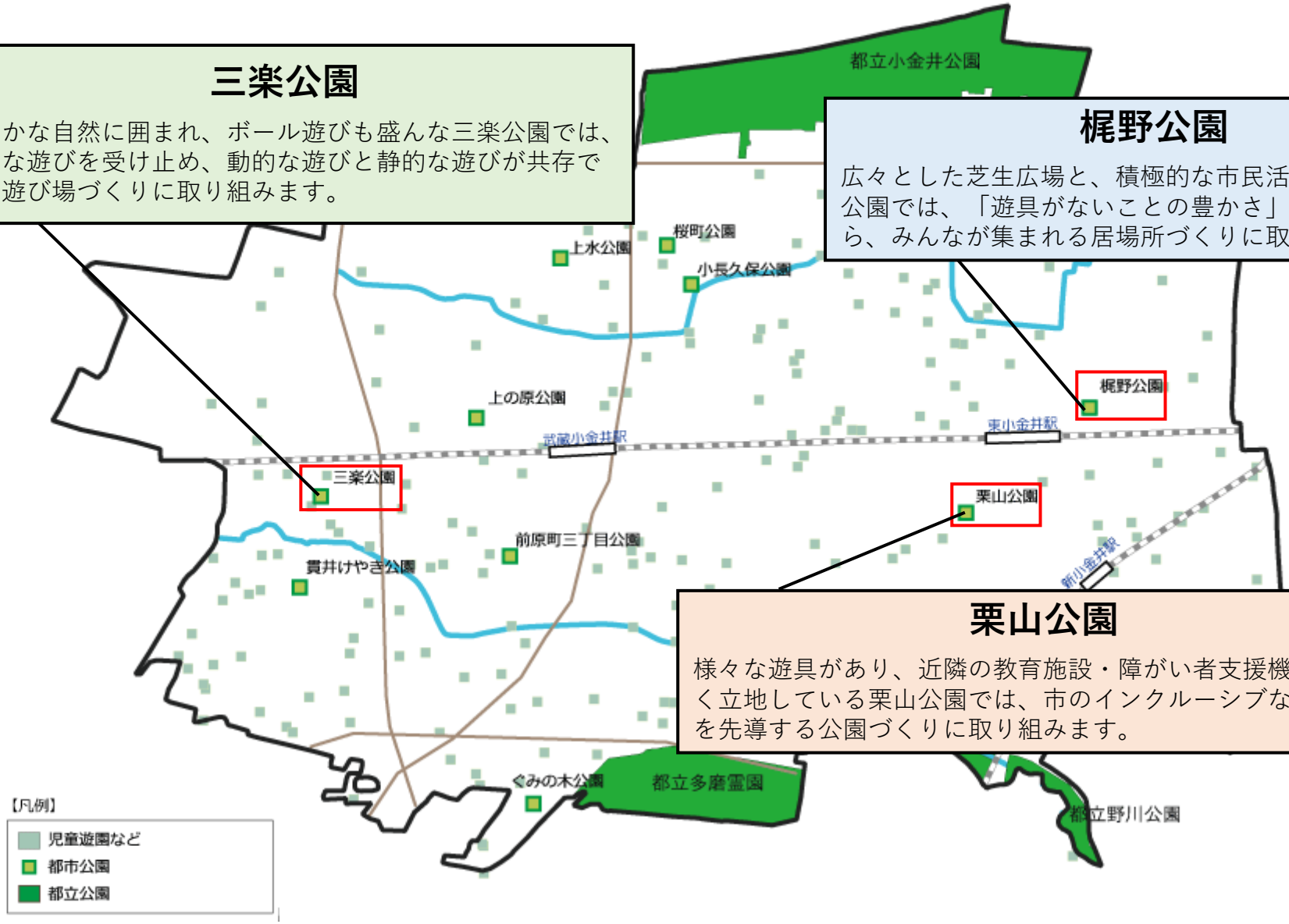
緑豊かな自然に囲まれ、ボール遊びも盛んな三楽公園では、様々な遊びを受け止め、動的な遊びと静的な遊びが共存できる遊び場づくりに取り組みます。

梶野公園

広々とした芝生広場と、積極的な市民活動が特徴の梶野公園では、「遊具がないことの豊かさ」を大切にしながら、みんなが集まれる居場所づくりに取り組みます。

栗山公園

様々な遊具があり、近隣の教育施設・障がい者支援機関等が多く立地している栗山公園では、市のインクルーシブな公園整備を先導する公園づくりに取り組みます。



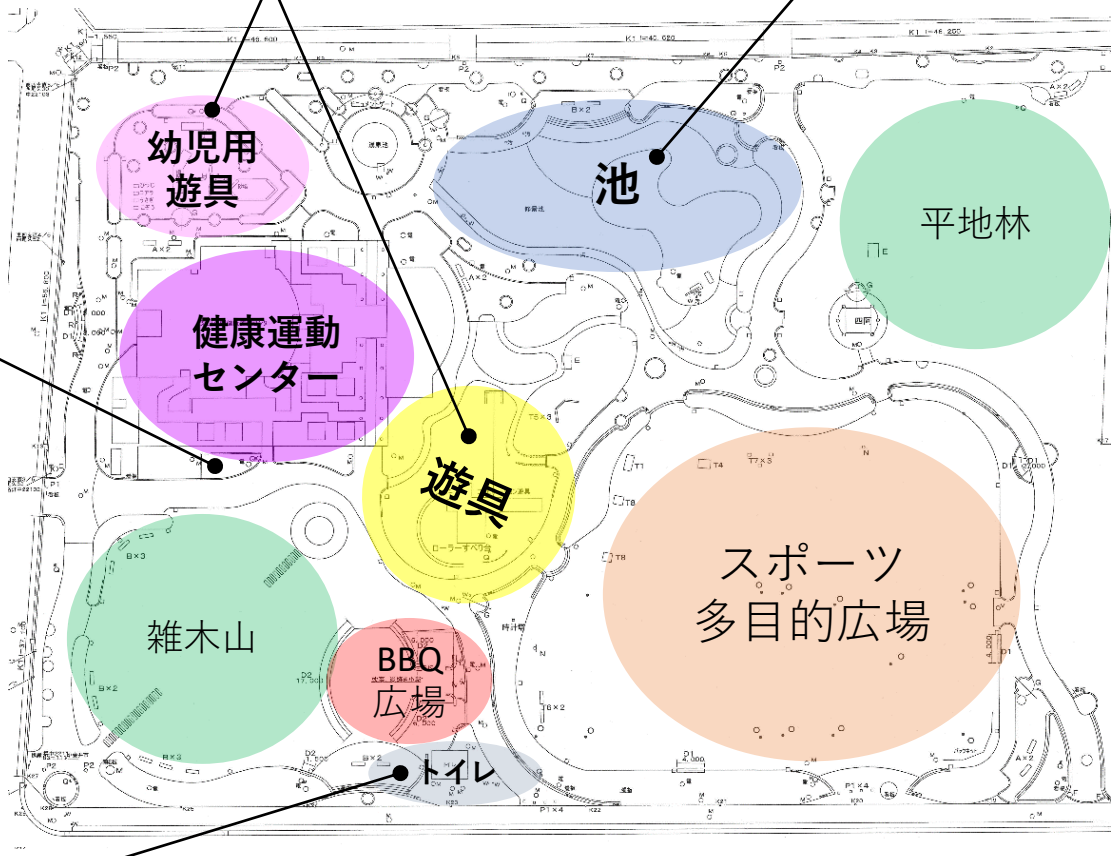
◆栗山公園の現状と課題

幼児向けから複合遊具まで、栗山公園にはたくさんの遊具があり、多くの子ども達に利用されていますが、障がいのある子どもに配慮した遊具はありません。

人が入ることはできませんが、カモなどがよく泳いでいます。
子どもの遊び場沿いは生垣があり、水面が見えません。

公園内、健康運動センターの隣に駐車場がありますが、健康運動センター利用者専用のため、公園利用者は使用することができません。

現在のトイレは、バリアフリー対応になっていません。



出典：スポNAVI 小金井市スポーツ施設 HP

公園内には、健康運動センターが立地していますが、公園とは所管や管理者が異なることなどもあり、今までは公園利用との連携はあまりありませんでした。
また、栗山公園の近くには教育施設・障がい者支援機関などが多く立地しており、インクルーシブな公園の実現には、これらの施設・機関等地域資源との連携を図っていく必要があると考えます。

栗山公園

【整備方針】

　様々な遊具があり、多くの市民に利用されている栗山公園では、インクルーシブ遊具を設置することで、障がいの有無に関係なく遊べる遊具広場を整備します。

　また、公園内に立地する健康運動センターや、近隣の教育施設・障がい者支援機関等と連携することで、これまで公園で遊べなかった子どもたちが遊びやすい環境づくりをソフト面からも進めることで、市のインクルーシブな公園整備を先導する公園としていきます。

◆整備方針に込めた想い

　今回、栗山公園で新たに整備するインクルーシブ広場を通じて、身体・知的・精神など障がいの有無に関係なく当たり前に遊べる環境を整備していきたいと考えています。

　そのためには、障がいのある子どもが遊びやすいことはもちろん、保護者や介助者が行きやすい環境にしていくことも重要と考え、駐車場やトイレ、休憩スペースなど、周辺環境の整備もあわせて行っていきます。

　また、公園内の健康運動センターとの連携による施設（トイレや医務室等）の利用や、近隣の教育施設・障がい者支援機関などとの連携による、教育機会や地域の居場所の創出などについても検討していきたいと考えています。

◆令和６・７年度の整備計画（概要）

① インクルーシブ遊具とともに、休憩スペースなど遊び場周辺の環境にも配慮した、**インクルーシブ広場**を整備します。

② 既存の池を活用し、**だれでも水面に近寄れる環境**を整備します。

③ 障がいのある方も使いやすい**トイレの改修**を計画します。

④ 公園内に**障がい者用駐車場**を新たに整備します。

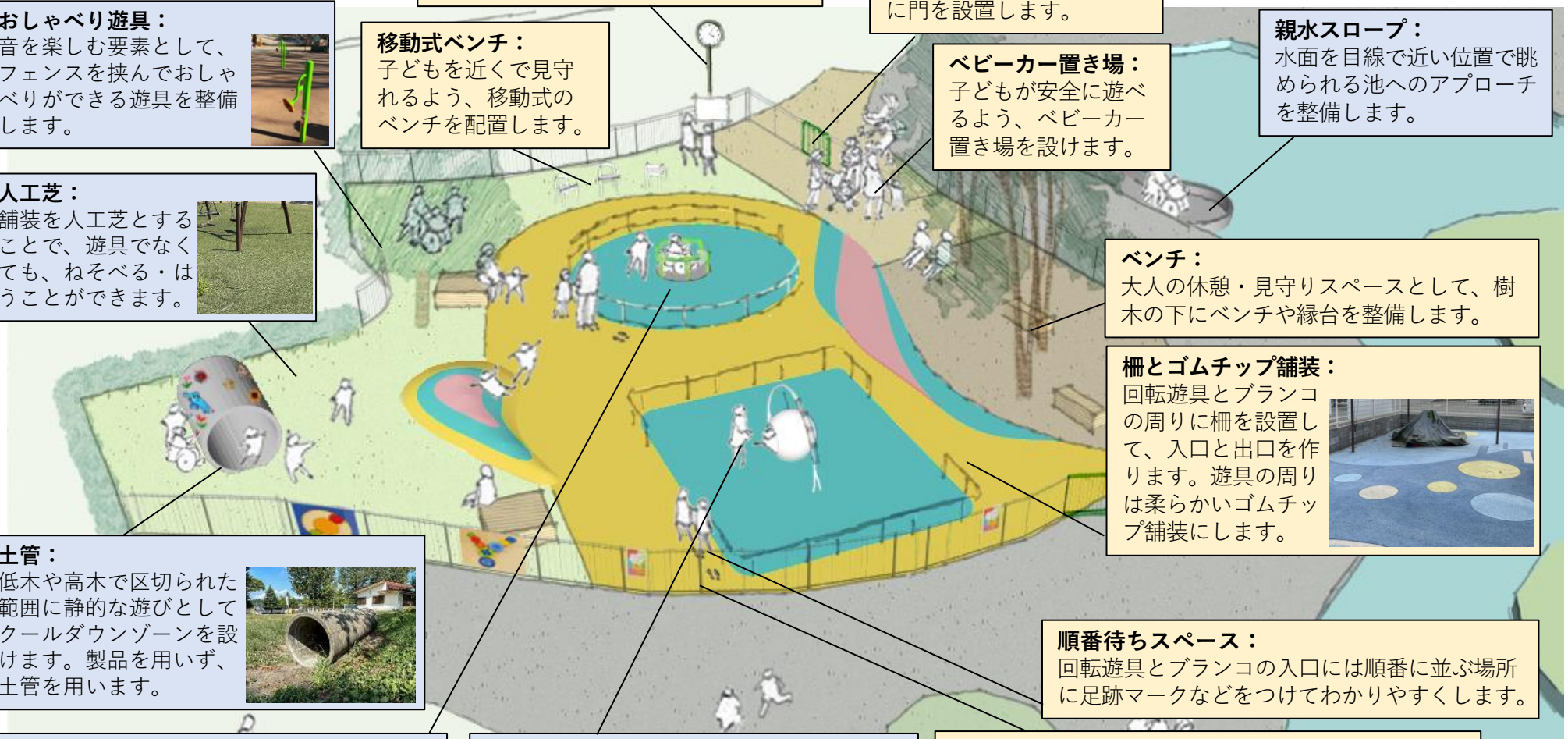
栗山公園

◆整備イメージ

※写真や舗装などの色は、あくまでも現時点のイメージとして掲載しています。

栗山公園

◆整備イメージ



時計と砂時計：
遊具を待つ時間や遊んだ時間が分かるように時計塔や砂時計を整備します。

門扉：
外周の柵の出入口は子どもが勝手に出ていかないように門を設置します。

おしゃべり遊具：
音を楽しむ要素として、フェンスを挟んでおしゃべりができる遊具を整備します。

移動式ベンチ：
子どもを近くで見守れるよう、移動式のベンチを配置します。

ベビーカー置き場：
子どもが安全に遊べるよう、ベビーカー置き場を設けます。

親水スロープ：
水面を目線で近い位置で眺められる池へのアプローチを整備します。

人工芝：
舗装を人工芝とすることで、遊具でなくても、ねそべる・はうことができます。

ベンチ：
大人の休憩・見守りスペースとして、樹木の下にベンチや縁台を整備します。

柵とゴムチップ舗装：
回転遊具とブランコの周りに柵を設置して、入口と出口を作ります。遊具の周りは柔らかいゴムチップ舗装にします。

土管：
低木や高木で区切られた範囲に静的な遊びとしてクールダウンゾーンを設けます。製品を用いず、土管を用います。

順番待ちスペース：
回転遊具とブランコの入口には順番に並ぶ場所に足跡マークなどをつけてわかりやすくします。

回転遊具：
車いすのまま乗ることができるシンボル的な遊具としてエリアの中央に近い場所に回転遊具を整備します。

球体型ブランコ：
身体を支えることが難しい子どもでも安定した姿勢で乗ることができる、球体のブランコを整備します。

外周柵とパネル遊具、コミュニケーションボード
エリアの外周には飛び出し防止のためフェンスを整備し、一部に遊べるパネルやイラスト・メッセージを伝えるためのコミュニケーションボードを配置します。

◆整備計画にあたっての検討・工夫

目的		内容	
1	地域への普及啓発	サイン コミュニケーション ボード	• インクルーシブな遊び場の地域への普及啓発として、障がいの有無や年齢に関わらず、誰もが遊んでよい広場であることを紹介するとともに、インクルーシブなまちの実現に向けた、情報発信の場としての機能も持たせます。
2	障がいがある子どもや未就学児への多様な遊びの場づくり	まわる ⇒回転遊具	• 障がいのある子どもが大きくなると遊べる遊具が少なくなってしまう、というご意見等を踏まえ、車いすのまま乗ることができる回転遊具を設置しました。 • なお、背もたれがあり寝そべって乗ることができるタイプの回転遊具も検討しましたが、車いすから子どもを抱えて移動させる必要があり、子どもが大きくなると移動が大変となるため、車いす乗車型を採用しました。
3		ゆれる ⇒ブランコ	• 身体を支えることが難しい子どもでも安定した姿勢で乗ることができる球体のブランコを設置しました。子ども2人が乗ることができます。 • なお、車いすで乗ることができるタイプのブランコも検討しましたが、車いすを載せるためのスロープや柵を動かす作業が必要となり、常駐の管理者がいない子どもの遊び場では安全に運用することが難しいと判断し、球体型を採用しました。
4		ねそべる、はう ⇒人工芝	• 地面に寝そべったり、這ったり、自由に遊べるよう、遊具に頼らない人工芝スペースを設置しました。
5		クールダウン ⇒土管	• 静かに過ごしたい、クールダウンしたい子どものスペースとして、遊具に頼らない土管を設置しました。チョークで落書きなどもできます。
6		その他 ⇒パネル遊具・ おしゃべり遊具	• 外周柵にパネル遊具を配置し、遊びの要素を加えました。 • 複合遊具の外周柵部分におしゃべり遊具を配置し、複合遊具で遊ぶ子供と会話を楽しむことができるようにしました。 • なお、インクルーシブな遊具として、車いすで乗ることができるトランポリンも検討しましたが、この場所ではトランポリンの隙間から落ちた物を回収するための構造（管理スペースを設けるなど）が難しいと判断し、設置しないこととしました。
7		ゴムチップ舗装	• 遊具の周りは柔らかいゴムチップ舗装とし、ゴムチップ舗装で模様を描くことで、市内の他の遊び場との違いを出し、子どものワクワク感が高まるようにしました。
8		サイン	• 遊び方や注意を示すサインを設置しました。
9	水や動植物とのふれあいづくり	池へのアプローチ （スロープの設置）	• 上から眺めるだけでなく、だれもが水面に近い位置で眺めることができるよう、池底までスロープと壁を設け、水面を目線に近い位置で眺めることができるようにしました。 • だれもが水面を上から眺めやすいよう、水面上にデッキを設けることも検討しましたが、様々な方法で水面により近い位置で眺めることができる、「池へのアプローチ（スロープの設置）」を採用しました。 • なお、当初は、水とのふれあいの機能として、噴水の設置の検討も行いましたが、工事費が約3,500万円と高額になり、毎年の維持管理（点検・修繕等）にも120万円程必要となるため、遊具などの整備を優先し、噴水は整備しないものとしました。

◆整備計画にあたっての検討・工夫

目的		内容	
10	水や動植物とのふれあいづくり	水生植物の植栽	• 池へのアプローチ付近に水生植物のプランターを池の中に配置し、花などの植物で季節の変化を感じられるようにしました。
11	安全に遊ぶ工夫	ゴムチップ舗装	• 遊具の周りは転んでもケガをしにくいよう、柔らかいゴムチップ舗装としました。
12		ベビーカー置き場	• 子どもが急に走った時にベビーカーにぶつからないよう、ベビーカー置き場を設けました。
13		外周柵	• 子どもが園路に飛び出さないように、子どもの遊び場の周囲にフェンスを設置しました。（高さ1.0m前後） • イラストやメッセージを伝えるためのコミュニケーションボードをフェンスに設置しました。
14		外周柵の出入口の門	• 外周柵の出入口に門を設置しました。（北側、西側、複合遊具側の3箇所） • 子どもが内側から開けにくい仕様の鍵とします。
15		低木植栽	• 植え込みの隙間に低木を植栽し、子どもが通る隙間をなくしました。
16	順番に並んで遊びやすくする工夫	遊具の柵	• 遊具の周りに柵を配置し、遊具への入口部分と出口部分を開けることで、出入口をわかりやすくしました。
17		柵の入口部分の舗装の模様	• 入口のゴムチップに足跡マークなどを書いて、順番に並ぶ場所がわかりやすくなるようにしました。
18		時計、砂時計	• 子どもが遊具を待つ時間や遊んだ時間が分かるよう、遊具から見える場所に時計塔や砂時計を設置しました。
19	暑さ対策	日陰用ロープ	• 樹木の間にロープを張り、シートなどをかけて日陰が作れるようにしました。 • 遊具の上に日陰を提供するシェードの設置も検討しましたが、強風時に取り外しが必要となり、常駐の管理者がいない子どもの遊び場では運用が難しいと判断し、設置しないこととしました。また、シェードの柱が移動の障害物となることや、工事費が600万円以上となることも、設置の判断をする際の懸念要素となりました。
20	大人の休憩・見守りスペース	ベンチ	• 樹木の下にベンチを配置し、日陰で大人が見守れるようにしました。 • ベンチの一部の色を分けることで、子どもにも休憩するベンチが見分けやすくなるようにしました。
21		移動式ベンチ	• 持ち運びができるベンチを配置し、大人が子どもの近くで見守れるようにしました。
22		縁台	• 樹木の下に縁台を配置し、日陰で大人が見守れたり、荷物を置けるようにしました。
23	移動のバリアフリー	駐車場の整備	• 車いす用駐車場を新たに2台整備し、車で来園しやすくしました。

梶野公園

◆梶野公園の現状と課題

子どもたちが自由に遊び、過ごす原っぱ。
平日午前は複数の保育園の子どもたちが訪れ、休日は家族連れで思い思いに過ごす姿が見られ、多くの市民に多目的に利用されています。
一方で、日差しを遮るものが少なく、近年の猛暑等を考慮すると、休憩できる日陰スペースが必要です。

管理・工事車両等も出入するゲート。
東小金井駅から一番近い出入口ですが、正面性が弱く、少し入りにくい印象を受けます。

舗装が一部劣化し、表面に凹凸が生じています。

トイレはバリアフリー対応となっていますが、障がいのある方の利用には、ユニバーサルベッドなどがあると良いという声が多く挙がっています。

駐輪スペースから自転車があふれ、車いすが通れないなど、通行に支障が生じる恐れがあります。

梶野公園

【整備方針】

広々とした芝生広場と、積極的な市民活動が特徴の梶野公園では、「遊具がないことの豊かさ」を大切にし、みんなが集まる果樹の木陰や座れる場所を兼ねた菜園を整備します。

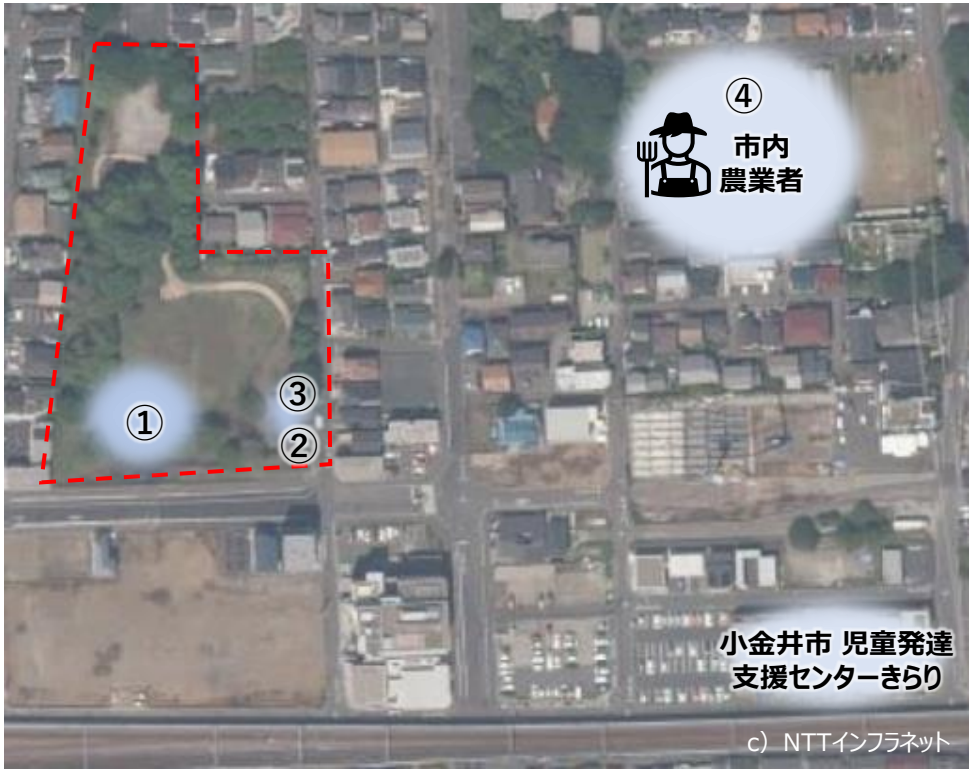
遊びや活動の際に休憩し、会話が生まれる日陰スペースを、小金井の特徴である農を活かしながら、地域の方々と一緒につくりあげていきます。

◆整備方針に込めた想い

梶野公園は、遊具ではなく広々とした広場で自由に遊べることが公園の魅力のひとつとなっています。また、市民活動が盛んであり、様々な活動が梶野公園で行われています。一方で、オープンスペースが多い分、日差しを遮るものが少なく、公園で遊びや活動をより楽しんでもらうためにも、日陰で休憩するスペースが必要と考えました。

そこで、日陰と会話が生まれる居場所として、地域の方や公園管理者など、みんなで協力し作りあげる、植物のグリーンカーテンを整備したいと考えました。地域のみなさんに“〇〇（植物名）のベンチ”と呼ばれ、愛着を持ってもらえるようなベンチを目指します。なお、これらの取組みを通じて、地域の交流や連携がより強固なものとなり、梶野公園のコンセプトでもある、“地域の防災力”を高めていくことも期待されます。

あわせて、車いすでも利用できる菜園を整備し、一緒に育てていくことで、障がいの有無に関係なく、みんなの居場所として交流や公園に行くきっかけを生み出していきます。



◆令和６・７年度の整備計画（概要）

① 誰もが利用しやすい**交流の場・居場所**を、みんなで整備します。

② 車いすなどでも移動しやすい**アクセス路の確保**、**障がい者用駐車場の拡充**を図ります。

③ 障がい者の方も使いやすいトイレとして、体が大きな子どもでも使えるベッドがあると良い、という意見から、**ユニバーサルベッドを設置**しました。（R6年9月実施済）

④ グリーンカーテン・菜園づくりにあたっては、公園の指定管理者を中心に、地域の方や市内農業者との連携による管理・活用について検討していきます。

◆整備イメージ

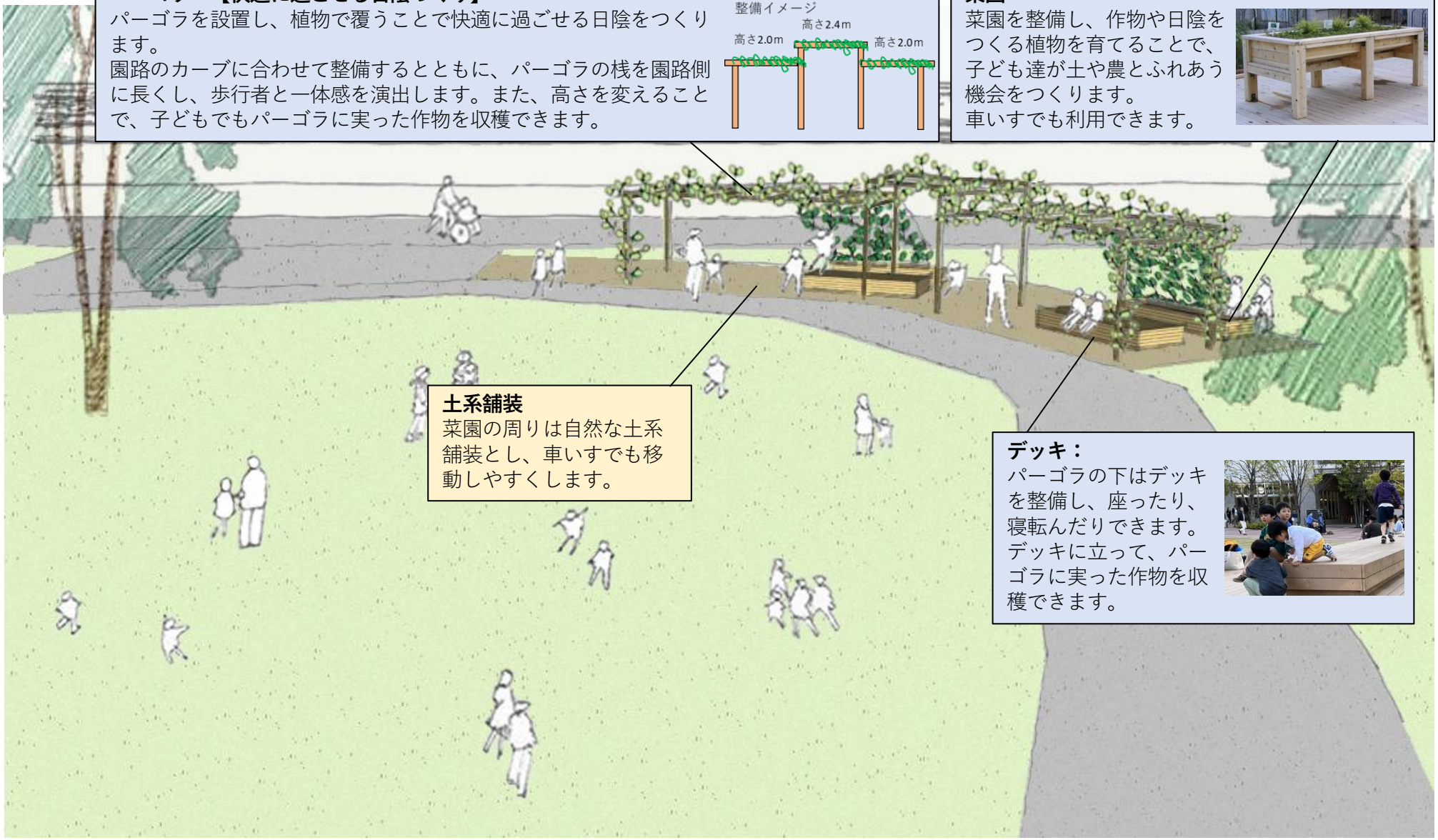
※写真や舗装などの色は、あくまでも現時点のイメージとして掲載しています。

梶野公園

◆整備イメージ（詳細）

パーゴラ：【快適に過ごせる日陰づくり】
パーゴラを設置し、植物で覆うことで快適に過ごせる日陰をつくります。
園路のカーブに合わせて整備するとともに、パーゴラの桟を園路側に長くし、歩行者と一体感を演出します。また、高さを変えることで、子どもでもパーゴラに実った作物を収穫できます。

菜園：
菜園を整備し、作物や日陰をつくる植物を育てることで、子ども達が土や農とふれあう機会をつくります。
車いすでも利用できます。



土系舗装
菜園の周りは自然な土系舗装とし、車いすでも移動しやすくします。

デッキ：
パーゴラの下はデッキを整備し、座ったり、寝転んだりできます。
デッキに立って、パーゴラに実った作物を収穫できます。

◆整備計画にあたっての検討・工夫

目的		内容	
1	子どもたちが土や農とふれあう機会づくり	菜園	• 菜園（木製プランター、地植えスペース）を設置し、日陰を作る植物や食べられる作物を育てます。 • 車いすで利用できる菜園（木製プランター）と通常の菜園（木製プランター）を配置し、車いすでも一緒に活動できるようにしました。 • 車いすで利用できる菜園（木製プランター）は、車いすが菜園に近づいて作業ができるように、菜園に支柱を付けて足元にスペースを作り、側面の一部を斜めにしました。 • なお、ベンチと菜園、つる棚を一体にした菜園ベンチの設置も検討しましたが、サイズが小さくなり、１箇所で少人数しか利用できないため、設置しないこととしました。
2		立水栓	• 水道の蛇口を菜園の近くに新たに設け、水やりなどをしやすくしました。 • なお、汚水桝についても検討しましたが、排水管の延長が長くなり、流末の接続が難しいため、設置しないこととしました。
3		サイン	• 使い方や注意を示すサインを設置しました。
4		収納ボックス	• 作業する器具を保管するため、収納ボックスを設置しました。
5	快適に過ごせる日陰づくり	パーゴラ	• パーゴラを設置し、植物がパーゴラの桟（ルーバー）を覆い日陰ができるようにしました。 • パーゴラの高さを分けることで、パーゴラの桟（ルーバー）に実った作物を収穫しやすくしました。 • パーゴラの桟（ルーバー）を園路側に長くし、歩行者との一体感を感じられるようにしました。 • 園路のカーブに合わせて、パーゴラの形状も曲線状にしました。 • 使用する木材は、特別な防腐処理を行い耐久性を高めました。
6		デッキ	• パーゴラの下にデッキを設け、座ったり、寝転んだり、皆が集まれるようになることで、子どもたちの集合場所となり、グループでの会話や交流が期待されます。デッキの上に立って作物を収穫したり、デッキの上に立って、パーゴラに実った作物を収穫することもできます。 • ベビーカーや車いすからデッキに移動し、幼児から大人まで横になって休憩できるスペースとなります。 • なお、大勢が座ることができるロングベンチの設置も検討しましたが、パーゴラの下ではデッキの方が座ること以外の利用もできるため、設置しないこととしました • 使用する木材は、特別な防腐処理を行い耐久性を高めました。
7	移動のバリアフリー	菜園周りの舗装	• 自然の中の菜園として、菜園周りの舗装は自然の土を用いた土系舗装とすることで、車いすでも移動しやすいようにしました。 • デッキや菜園を片側に寄せて配置して設けた滞留スペースや立水栓周りを、園路まで土系舗装で接続しました。
8		駐車場の増設	• 駐車場を1台増設し、車いす駐車場を計3台として、車で来園しやすくしました。
9		南側駐輪場の北側駐輪場への集約	• 駐車場南側の出入口は駐輪場から自転車が溢れて、園路にも自転車が止めてあり、車いすの通行を妨げていたため、駐輪場を既存の北側駐輪場に集約することとしました。

◆三楽公園の現状と課題

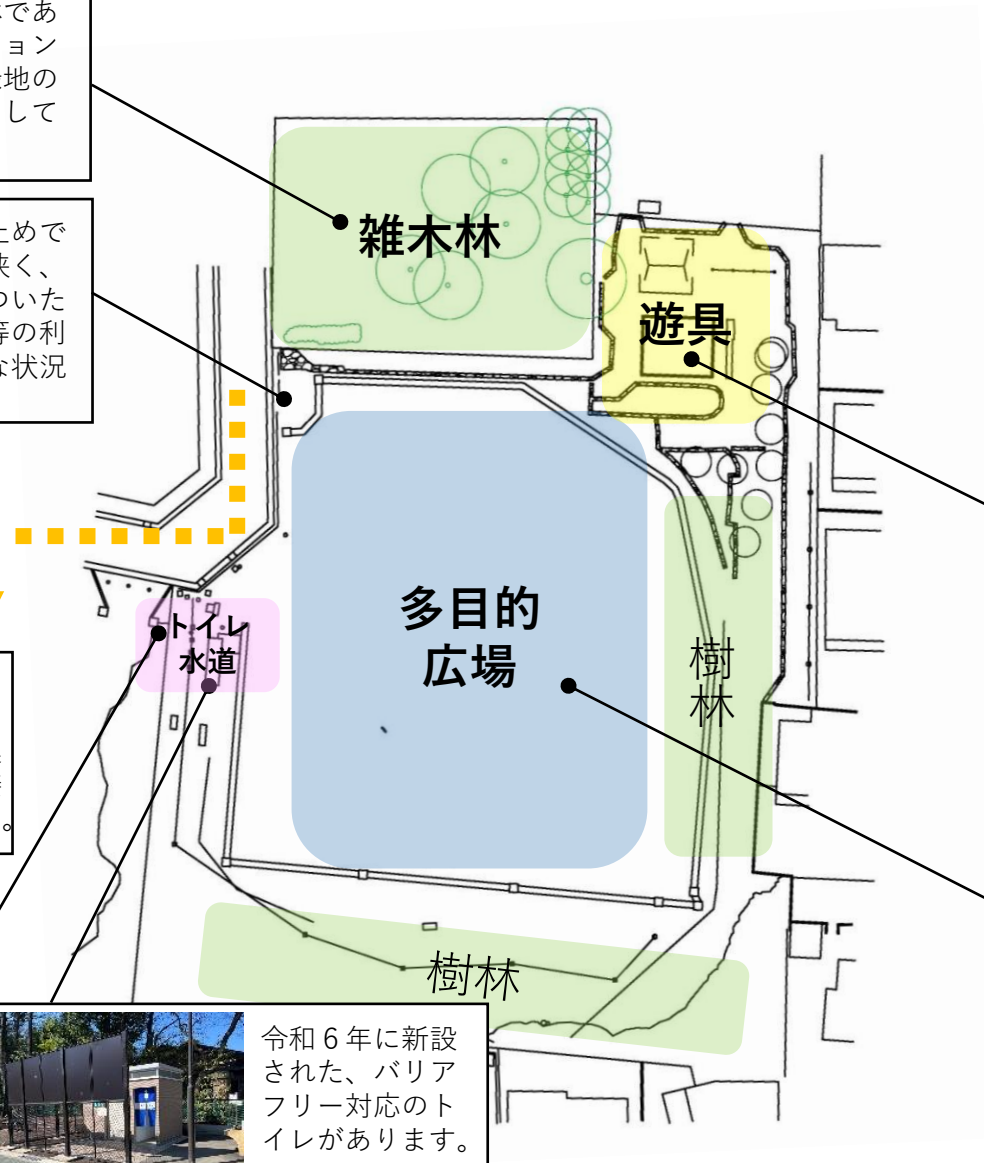
貴重な樹林であり、マンションとの緩衝緑地の役割も果たしています。

既設の車止めで入口幅が狭く、勾配もきついため車いす等の利用は困難な状況です。

バリアフリー機能の整う三楽集会所が隣接しています。

公園から三楽集会所につながる通路の一部に段差があります。

令和６年に新設された、バリアフリー対応のトイレがあります。



ブランコ、鉄棒、すべり台、砂場、健康遊具（数台）が設けられており、近隣の学童や小学生など、たくさんの子どもたちに利用されています。
大型の砂場は、障がい者就労支援施設による公園清掃のおかげで清潔に保たれています。

広場では、定期的に少年野球の練習日があるほか、平日も放課後に学童保育所の子どもたちを中心に、多くの小学生がボール遊びなどをしています。

三楽公園

【整備方針】
緑豊かな自然に囲まれながら、小中学生がボール遊びなどで活発に遊んでいる三楽公園では、様々な遊びを受け止め、動的な遊びと静的な遊びの共存を目指していきます。
遊具のほかに、菜園を整備することで、これまで公園に行きづらかった子どもたちが公園に行くきっかけをつくり、ゆるやかな交流・まじりあいが生まれる、みんなの居場所としていきます。

◆整備方針に込めた想い

緑豊かな三楽公園では、小中学生がボール遊びなどで活発に遊んでいます。一方、障がいのある子やのんびり遊びたい子にも配慮し、それぞれが遠慮することなく、一緒になって同じ空間を共有できる環境を整備していきたいと考えています。

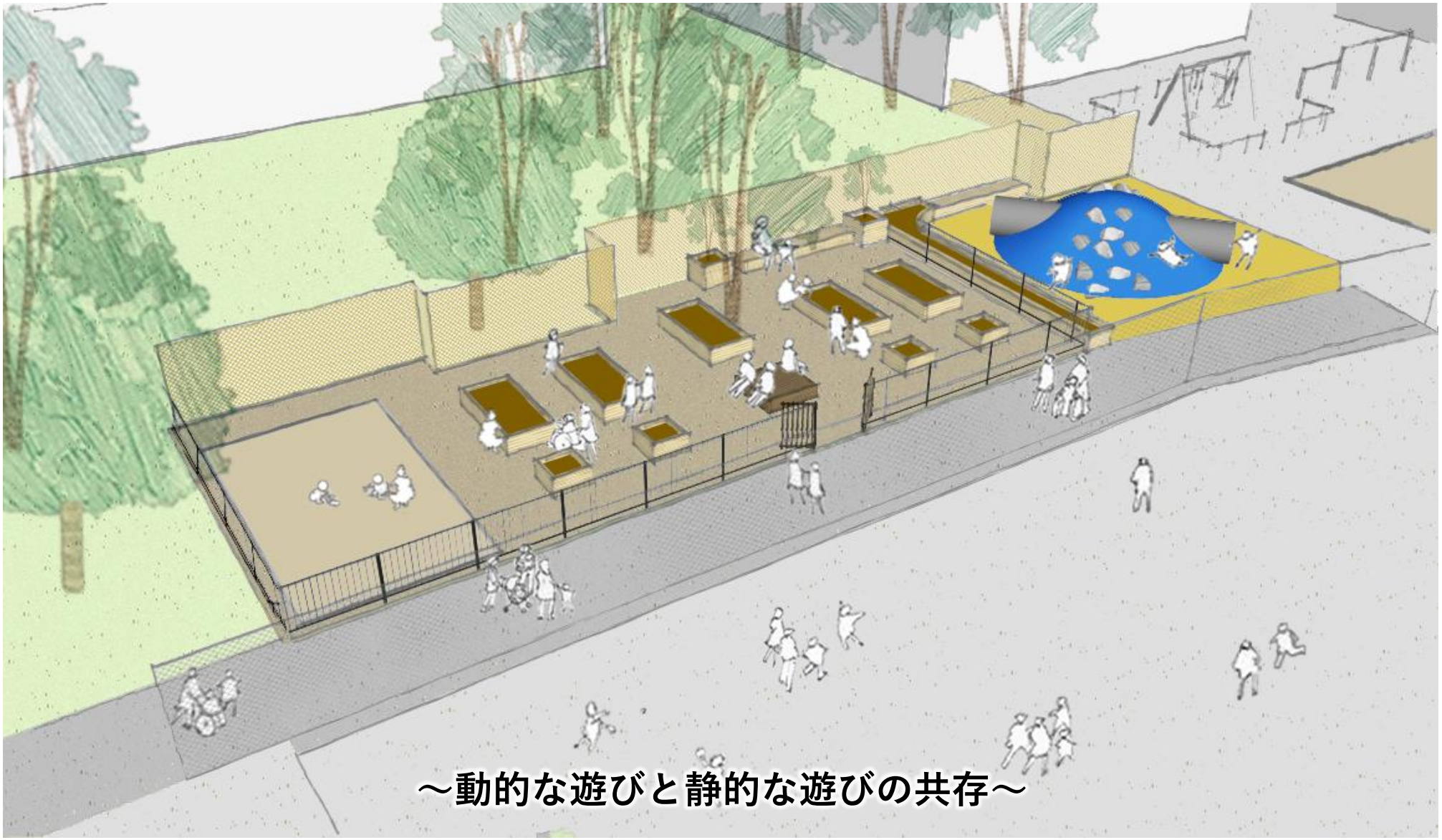
そこで、既存の多目的広場との間に、ボール飛び込み防止の木柵を設置することで、つながりを持ちつつも、それぞれが安全に遊べる環境をつくりだしていきます。また、遊び以外で交流が生まれる菜園を整備し、障がいのある子や不登校の子、地域の方など、様々な人の交流と、公園に行くきっかけを作りだしていきます。

さらに、入口・園路のバリアフリー化や、三楽集会所、三楽の森、環境楽習館や近隣小学校等との連携による、誰もが利用しやすい環境・居場所づくりを、エリア一帯で進めていきたいと考えています。

◆令和６・７年度の整備計画（概要）

① **誰もが利用しやすい遊具**を整備します。
② 子どもたちの**交流や居場所となる菜園**を整備します。
③ 車いすなどでも移動しやすい、**バリアフリー対応のエントランスや園路**を整備します。
④ ボール遊びと分離した**安全なスペースを確保**します。

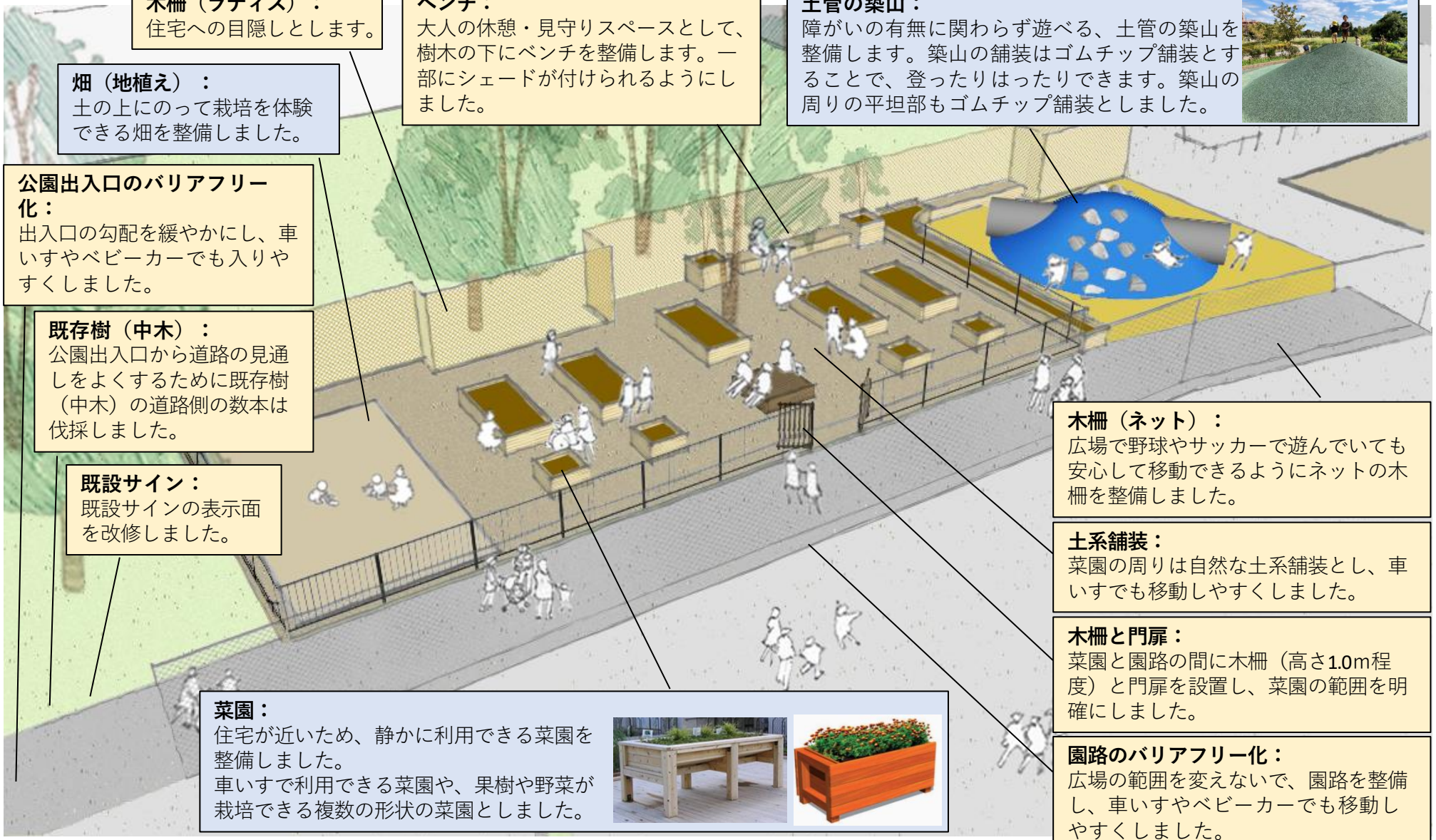
◆整備イメージ



※写真や舗装などの色は、あくまでも現時点のイメージとして掲載しています。

三楽公園

◆整備イメージ（詳細）



木柵（ラティス）：
住宅への目隠しとします。

ベンチ：
大人の休憩・見守りスペースとして、樹木の下にベンチを整備します。一部にシェードが付けられるようにしました。

土管の築山：
障がいの有無に関わらず遊べる、土管の築山を整備します。築山の舗装はゴムチップ舗装とすることで、登ったりはったりできます。築山の周りの平坦部もゴムチップ舗装としました。

畑（地植え）：
土の上にのって栽培を体験できる畑を整備しました。

公園出入口のバリアフリー化：
出入口の勾配を緩やかにし、車いすやベビーカーでも入りやすくしました。

既存樹（中木）：
公園出入口から道路の見通しをよくするために既存樹（中木）の道路側の数本は伐採しました。

既設サイン：
既設サインの表示面を改修しました。

木柵（ネット）：
広場で野球やサッカーで遊んでいても安心して移動できるようにネットの木柵を整備しました。

土系舗装：
菜園の周りは自然な土系舗装とし、車いすでも移動しやすくしました。

木柵と門扉：
菜園と園路の間に木柵（高さ1.0m程度）と門扉を設置し、菜園の範囲を明確にしました。

菜園：
住宅が近いため、静かに利用できる菜園を整備しました。
車いすで利用できる菜園や、果樹や野菜が栽培できる複数の形状の菜園としました。

園路のバリアフリー化：
広場の範囲を変えないで、園路を整備し、車いすやベビーカーでも移動しやすくしました。

三楽公園

◆整備計画にあたっての検討・工夫

目的		内容	
1	障がいの有無に関わらない多様な遊びの場づくり	土管の築山	• 足と手で登る遊具も良いとの意見なども踏まえ、自然の中にある遊具として、既製の遊具を用いないで、ゴムチップ舗装の築山と土管のトンネルを設置しました。 • 遊具検討にあたっては、当初、複数人で乗れるブランコの設置も検討しましたが、学童保育所があり、小学生が多く遊んでいるため、ブランコを大きく揺らすなど、障がいがある子どもや未就学児が一緒に遊ぶには危ない面があると判断し、設置しないこととしました。
2		ゴムチップ舗装	• 遊具の周りは柔らかいゴムチップ舗装とし、ゴムチップ舗装で模様を描くことで、市内の他の遊び場との違いを出し、子どものワクワク感が高まるようにしました。
3		既設花壇の位置変更	• 既設花壇を土管の築山と菜園の間に移動させることで、既存の遊具と土管の築山が一体的な遊び場となるようにしました。学童保育所の子どもはこれまでどおり、花の栽培ができます。
4		サイン	• 遊び方や注意を示すサインを設置しました。 • インクルーシブな遊び場の地域への普及啓発として、障がいの有無や年齢に関わらず、誰もが遊んでよい広場であることを紹介するとともに、インクルーシブなまちの実現に向けた、情報発信の場としての機能も持たせます。
5	子どもの交流や居場所となる場づくり	菜園	• 住宅が近いため、菜園とすることで静かに利用できるようにしました。 • 菜園は、複数の形状の木製プランターとすることで、果樹や野菜など複数の植物の栽培ができるようにしました。 • 車いすで利用できる木製プランターを配置し、車いすでも一緒に活動できるようにしました。車いすで利用できる菜園（木製プランター）は、車いすが菜園に近づいて作業ができるように、菜園に支柱を付けて足元にスペースを作り、側面の一部を斜めにしました。 • 使用する木材は、特別な防腐処理を行い耐久性を高めました。
6		畑（地植え）	• 直接土の上に載って栽培が体験できるようにしました。
7		縁台	• 菜園の中央に縁台を設置して、集合場所や荷物置き場として利用できるようにしました。
8		立水栓	• 水道の蛇口を菜園の中に設けて、水やりなどをしやすいようにしました。
9		木柵（菜園沿い）	• 菜園と園路の間に木柵（高さ1.0m程度）と門扉を設置し、菜園の範囲を明確にしました。 • 木柵の学童保育所の近くには、管理用の門扉を追加しました。 • 使用する木材は、特別な防腐処理を行い耐久性を高めました。
10		収納ボックス	• 作業する器具を保管するため、収納ボックスを設置しました。

◆整備計画にあたっての検討・工夫

目的		内容	
11	多様な遊びを 安全に共存させる工夫	木柵（ネット）	• 新しく整備する園路沿いにネット状の木柵（高さ2.0m程度）を設けて、野球やサッカーなどのスポーツや遊びの際にも安心して移動できるようにしました。 • 使用する木材は、特別な防腐処理を行い耐久性を高めました。
12	大人の休憩・見守り スペース	ベンチ	• 樹木の下にベンチを配置し、日陰で大人が見守れるようにしました。一部にシェードが付けられるようにします。
13	移動のバリアフリー	公園出入口の勾配の改修	• 車いすやベビーカーで入りやすいように、公園出入口の勾配を緩やかにしました。
14		三楽集会所側通路の改修	• 三楽集会所と三楽公園をつなぐ通路の段差を解消しました。
15		園路の整備	• 利用者の移動ルートとなっている広場の北側に、耐久性が高いアスファルト舗装で園路を整備し、車いすやベビーカーで移動しやすいようにようにしました。なお、広場の範囲は変わりません。
16		菜園内の舗装	• 自然の中の菜園として、菜園内は自然の土を用いた土系舗装とすることで、車いすでも移動しやすいようにしました。
17	周囲の住宅に対する配慮	木柵（ラティス）	• 菜園と土管の築山の北側に格子状の木柵を設置して、北側にある住宅への目隠しの効果が出るようにしました。 • 使用する木材は、特別な防腐処理を行い耐久性を高めました。